

## 関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ



2025～2026年度 関中央ロータリークラブ 会長テーマ

「自利利他 自らを研鑽し

社会に貢献するロータリー」

例会日：毎週木曜日 18時30分

例会場：関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2

会長：吉田 和也

副会長：高井 良祐

幹事：森 敬

会報：古田 育則

事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D

TEL <0575>24-7332 FAX<0575>23-5278

前例会の記録 第 2203 回

2026年 2月12日

「関商工高校・台湾景文高校との  
交流事業」の報告会

場 所 関観光ホテル

担 当 国際奉仕

本日のプログラム 第 2204 回例会 2026年2月26日

### 卓話「過疎化地域における道路狭小部のアセットマネジメント」

担 当：出席委員

ロータリーソング「我等の生業」斉唱…⑨

\*会長あいさつ 吉田和也 会長



今日の卓話は出席委員会の担当で、藤村会員による「過疎化地域における道路狭小部のアセットマネジメントの報告会」というテーマで卓話をいただきます。過疎化地域という現状の中で、道路使用頻度の問題等のある中、どのような計画的な維持管理、活用の計画をされてみえるか非常に

興味のあるテーマですので楽しみに聞かせていただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

話は変わりますが、平成30年7月に発生した関市豪雨災害の際、ガレキの撤去にトラックが足りないとの市からの知らせがあり、会社のトラックに乗って、上之保温泉の入口の橋のすぐふもとのお宅と、鳥屋市地区のお宅ガレキの撤去のボランティアに参加させていただきました。鳥屋市地区のボランティアのとき、藤村さんが消防団の部長としてご尽力され、災害復旧の指揮をとっておられました。私も藤村さんの段取りのもと、一軒は床下に積もった泥の撤去と、もう一軒は床板など使

えなくなった木材の運びだしをさせていただきました。また、もう一軒の、温泉の橋のたもとのお宅では、廃棄処分する家電、机、タンスなどの家財の運びだしをお手伝いさせていただきましたが、いろいろな写真や洋服、食器、飾ってあった品々が泥だらけのまましっかりと分別もできないまま、やむを得ず廃棄しなければならない状況で、住民のおばあさんが、家族との思い出が詰まったものがなくなっていく状況を見ながら、私はこの先どうしたら良いかと嘆いておられ、とても悲しい気持ちになった記憶がございます。本当にこのような災害は2度と起こってほしくないと思っております。

今回の卓話のテーマとは少し内容がちがいますが、そのあとに当時の尾関市長がお話されていたハード面、ソフト面における防災対策が現在どのようになっているのかも気になるところです。

また、昨日恵の雨は降ったものの依然として30年に一度といわれる記録的な少雨の状況で深刻な水不足が懸念されております。今後2月末から3月でまとまった雨の予報はありますが、これまでの不足分を解消するには至らないようです。この先、夏に向けて例年以上の猛暑が予想される一方、降水量は平年より多くなり5月ごろから解消に向かうと期待されているようですが、最近では、線状降水帯の発生で雨が降る時は局所に集中的に非常に激しい雨が降り災害の危険性が高まる傾向があります。一年を通じて平均的に降ってくればよいと思うのですが、自然相手ではいたしかたありません。何とか私たちの世代でこの異常気象の原因を解決したいものだと思います。

なんでも適量が良いと申しますように、この先も適量の雨で災害が起こらないことを祈念いたしまして本日の会長挨拶とさせていただきます。

#### \*本日のプログラム

卓話「過疎化地域における道路狭小部のアセットマネジメント」



担当：出席委員長

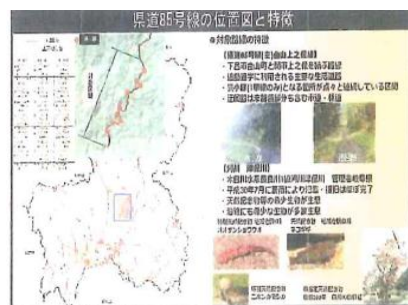
藤村勇太会員

今回、卓話でお話させていただくのは、出席委員会での卓話となっていま

すが、正直なところ、出席委員会としての卓話と言っても何も思い浮かべることができませんでした。そこで、大変恐縮ではありますが、ロータリークラブに参加させていただいた時に、受講しておりました、ME、メンテナンスエキスパートという社会資本特に道路を取り巻く構造物の保守管理、維持に特化した技術者を育てることを目的とした資格を取得したときに作成した発表がその時の発表だけで眠ってしまっていたので、皆さんに紹介させていただこうかと思いました。岐阜大学の教授陣に向けての論文となっておりますので、専門的なところもありますが、簡単に短めにお話させていただきます。



私は県道85号線の狭小部を対象としたアセットマネジメントについて発表します。対象とした県道85号線は下呂市金山と関市上之保を結ぶ狭小部を多く含む路線です。よく言えば田舎のイメージそのままの豊かな自然に囲まれた道路です。県道85号線は、平成30年7月の豪雨で大きな影響を受けました。関市の報告によると3か所で全面通行止めとなり、最長で5か月後の12月まで規制が続きました。



3次緊急輸送道路に指定されていることや古いデータですが2000年時に、1500人近くが通勤と通学



に利用していることから、影響の大きさが解ります。県道85号線は多くの問題を抱えています。迂回路も十

分ではなく、災害時に通行止めが多発します。高齢化社会が進む中で、緊急車両や福祉車両が通行できないことは命に関わる事象となります。

これらの問題点を ME 養成講座から得た知見を用いて解決するため アセットマネジメント手法について検討しました。

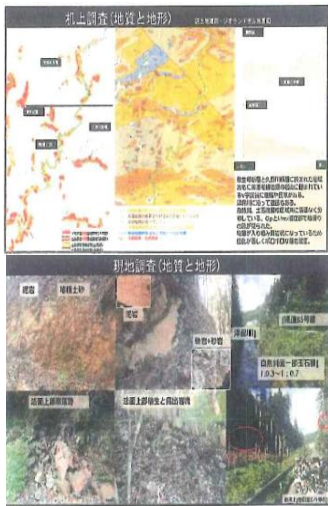
**県道85号線の抱える問題点**

- A) 様々な災害に見舞われて通行止めが発生している。
- B) 大雨、台風で土砂や流木、倒木が毎年のように発生している。
- C) 狭小部が点在し潜在リスクとなっている。
- D) 迂回路は冬季通行止めとなり、未舗装部分もある。
- E) 殆どの地域住民が利用する道路で生死に関わることもある。

(緊急車両、福祉車両は通過させなければならない)

↓

ME養成講座から得た知見を用いて問題解決に向けた  
アセットマネジメント手法について検討する



まず、地形と地質を机上調査しました。放生峠断層と久野川断層に挟まれた地域で、美濃帯を構成する堆積岩の分布により、山地は急峻になっていることが解りました。また、破碎帯や風化しやすい構造が多くみられ不安定な地山となっていることが解りました。現地調査として、露

出地質の確認も行いました。モルタル吹付上部の山肌と河川を挟んだ反対側で露出した地層の確認が出来ました。現地では泥岩や堆積土砂、礫岩を含んだ砂岩などが入り乱れていました。モルタル吹付上部では、剥離した岩塊の崩壊がみられるほか、亀裂に植生が入り込み不安定になった岩塊が確認できました。放生峠断層と久野川断層に挟まれた地域で、美濃帯を構成する堆積岩の分布により、山地は急峻になっていることが解りました。また、破碎帯や風化しやすい構造が多くみられ不安定な地山となっていることが解りました。現地調査として、露出地質の確認も行いました。モルタル吹付上部の山肌と河川を挟んだ反対側で露出した地層の確認が出来ました。現地では泥岩や堆積土砂、礫岩を含んだ砂岩などが入り乱れていました。モルタル吹付上部では、剥離した岩塊の崩壊がみられるほか、亀裂に植生が入り込み不安定になった岩塊が確認できました。

机上と現地の調査を踏まえ、地形地質から見える特徴は、剥離や崩壊を起こしやすい状況があるということです。これらの結果を踏まえ今後の潜在リスクを点検を通して確認するために調査を実施しました。

**地形・地質から見える特徴**

- A) 主に美濃帯堆積岩類の分布が見られる。風化に対する抵抗力が大きく急峻な山地となりやすい。
- B) 屈曲した流路を持つ津保川に沿っており、水害の影響を受けやすい。屈曲部では十分な道路幅を得られず、**1車線のみの狭小部が点在している。**
- C) 水分の侵入が関与して**すべり面となり崩壊しやすい地質性状をもつ付加体(メランジュ)が高地部分に分布している。**
- D) 断層に挟まれていることから、層毎の剥離が起きており風化が進むと**剥離と崩壊を繰り返しやすい地質となっている。**



1 つめは自然法面です。大雨時に繰返し土砂が流出していることから、下方に簡易の土止めが施工してありましたが、道路面に帯水

している状況でした。落石も確認でき、不安定になっている岩塊も確認できました。対策は、まず、側溝を掃除すること、岩塊等を除去すること、を実施してから、谷止工や、河川護岸への影響をモニタリングする必要があります。2 つめは、モルタル吹付と落石防護網の複合対策箇所です。金網の破損が大きい箇所やワイヤの変形、繁茂による法

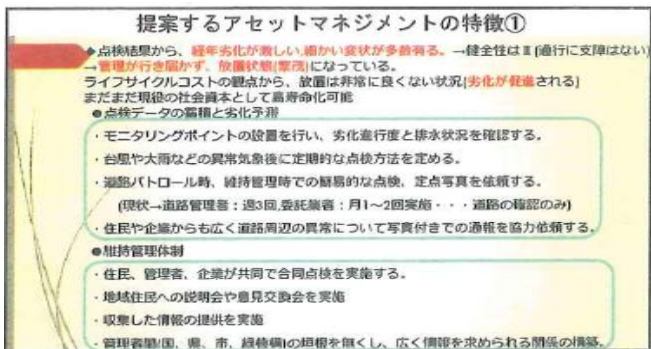


面と網の離隔が大きくなるなどの落石防護網の変状のほか ひび割れ浮き、剥離、遊離石灰なども広くみられました。側溝や集水桝の詰まりも見られました。対策は土砂詰まりの解消と、水抜き穴の機能回復を行い必要な箇所に補修を実施する必要があると判断しました。3 つ目は 防護柵は劣化による塗装の剥

がれが支柱にみられるほか、基礎部分にひび割れ、背面の土砂だまり、繁茂による柵の破壊が見られ、ブロック積はブロック自体に



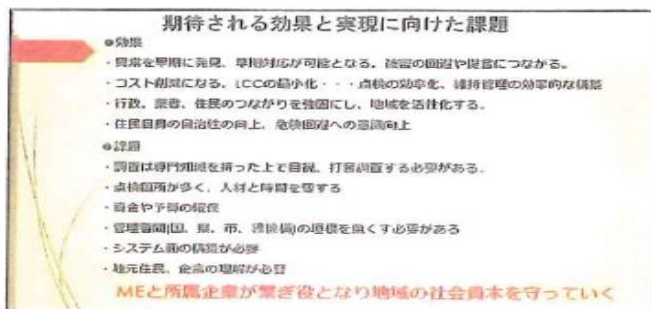
ひび割れが生じているほか、1.8m 付近にはらみだしのようなブロックのずれが見られ、初期不良なのか判断するため継続観察の必要があると判断いたしました。点検結果を踏まえると、対応は点検の継続と簡単な対応で対処が可能となります。



しかし現状としては、経過観察として、放置されているような状況で、対応を適切なタイミングで実施すれば問題なく利用が可能な状態と考えます。そのためには、モニタリングを確実に行うことや、地域と一体となって管理を行うような仕組みを作り上げる必要があります。



す。現在行われている取り組みとしては関市では専用フォームで、国土交通省は LINE で、岐阜県は電話でとばらばらに情報を集めていますが、これらを一緒に行って、住民による発見、システムによる集約、解析を実施し、現場把握や対応を企業やMEが実施し、対処や処置を管理者が取りまとめることで異常を早期発見し、対応が可能となり、維持 保全が効率的に行える他、地



域の安全意識の向上に寄与できると考えます。課題としては、最終判断には専門知識が必要なことや、点検箇所に対して、人材も予算も足りていない実情があります。しかしこれらの問題を解決して ME と企業が繋ぎ役となって、地域の社会資本を守っていかねばなりません。高齢化社会が進行するなかでは、社会資本は重要性を増していくと思います。安心・安全な地域のマネジメントの構築と予防対策の考え方を取り入れ、美しい田舎の風景をまもっていきたいです。

こちらの論文を発表した際、誰が管理するのか、誰がやるのか決めた方がいいと言われました。その後、県の方とお話をする機会があり、最近では LINE 等で道路状況を写真で送ると、市道であっても国道であっても担当者につながり行くようになっています。HPを見ると QR コードがあり、そのコードを読み取って異常があれば写真を撮って送ると対応してくれます。一度試して見てください。ご清聴ありがとうございました。



- \* 出席委員会  
会員数 26 名、本日の出席 15 名です。
- \* ニコボックス委員会  
15 イントのご投函ありがとうございました。
- \* その他の委員会報告
- \* 幹事報告

<次例会の案内>  
第 2205 回 3 月 5 日 (木)  
「本年度インターアクト事業報告と反省」  
担当: 青少年育成